

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No.22

日本デイケア学会広報委員会
2011年1月15日発行
日本デイケア学会事務局
東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F
(有) エム・シー・ミュージズ内
TEL: 03 - 3813 - 6368
FAX: 03 - 3813 - 6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
http://www.daycare.gr.jp

「デイケアからの飛躍
それぞれのリカバリーを目指して」

—日本デイケア学会第16回年次大会
名古屋大会の開催にあたって—

日本デイケア学会第16回年次大会
大会長 福智寿彦

2011年9月22日(木)・23日(金)の二日間、日本デイケア学会第16回年次大会を名古屋で開催します。

精神科医療・高齢者介護のあるべき姿が見えにくい今日、精神科デイケア・高齢者デイサービスの果たすべき役割は何かのでしょうか。「病院・施設から地域へ」と叫ばれるようになってから久しくなりますが、我が国は未だ精神障害者・高齢者が住みよい地域社会とは言えず、諸外国からの遅れも否認めません。様々な問題が指摘されますが、当事者の方が「自分の人生を自分で決めていこう。」と思えるような支援のあり方が今後は望まれます。病院、診療所、福祉施設などはいずれも本人が意思を持って選択・利用すべきものなのです。

そこで、名古屋大会では「デイケアからの飛躍—それぞれのリカバリーを目指して—」を大会テーマに掲げました。デイケア・デイサービスは様々な社会資源の一つとして本人に選択・利用してもらいべきです。そのためにも、当事者に選択してもらえるような、尚且つ抱え込まないようなデイケア・デイサービスとは何かを考えてみたいと思います。

学術大会は9月22日(木)・23日(金)の二日間、COP10でも注目を浴びた名古屋国際会議場で開催します。初日午前には、「認知行動療法の実践」との題で、東京大学大学院総合文化研究科教授の石垣琢磨さんに統合失調症への認知行動療法の実践をお話いただきます。ランチョンセミナーでは、「デイケアからの飛躍」と題し、本大会の主旨を私の方からお話しさせていただきます。午後の特別講演では、ロサンゼルス郡精神保健局長兼 CEO デーヴィッド・

ピロンさんをお招きし、「リカバリーの実践から日本へ提言できること(仮)」という題でお願いしました。また、愛知医科大学精神科学講座教授の兼本浩祐さんには「それぞれの現場からみたデイケアの位置づけ」をお話していただきます。さらに今回は新たな試みである家族によるシンポジウム、当事者によるシンポジウムを行います。ご家族、当事者の方もたくさんご参加下さい。また、介護老人保健施設「伸寿苑」施設長代理の井上崇さんには「地域の暮らしを支える通所サービスの役割」を、医療法人雄仁会メディカルケア虎ノ門院長の五十嵐良雄さんには「気分障害を対象としたリワークデイケア〜リワークプログラムの実践と効果〜」との題でシンポジウムをお願いしました。

二日目の午前のシンポジウムでは、京ヶ峰岡田病院 PSW 部部長の竹中秀彦さんには「精神科デイケアのこれから」を、日本福祉大学社会福祉学部保健福祉学科教授の野中猛さんには「精神障害リハビリテーションとリカバリー」との題でお話していただきます。午後からは「日本におけるリカバリーとは」とのテーマで全国から集まり座談会も計画しました。そして、最後には一般の方にも参加していただく公開講座として「当事者が語るリカバリー」を精神医療サバイバー広田和子さんと当事者のシンポジストをお招きして開催します。

学術大会終了後の24日(土)には、現地での研修・見学会を計画しています。精神病院・診療所でのデイケアの実践、うつ病のリワークの実践の4コースで行います。

本大会は、ご参加いただいた皆様にとってきっと臨床現場で役立つプログラムです。昨年、開府400年を迎え活気に満ちている名古屋は見どころも満載です。全国から多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

*本大会においては、通常「先生」と呼ばれる皆様も「さん」とお呼びすることとさせていただきます。ご了承下さい。

2011年1月 吉日

「日本デイケア学会 第15回年次大会を終えて」

日本デイケア学会第15回年次大会 大会長
浅野 弘毅

「あらためて、デイケア・デイサービスの意義を問う」をメインテーマにかかげ、第15回年次大会を、平成22年9月17日(金)・18日(土)の両日、仙台(江陽グランドホテル)で開催致しました。大会の参加者は782名でした。

初日には「支えあうということ」と題して、哲学者で大阪大学総長の鷺田清一先生をお招きして特別講演をしていただきました。大会長講演は「精神科デイケアのエッセンス」と題して浅野弘毅が行いました。教育講演は東北福祉大学大学院教授・東北大学名誉教授の佐藤光源先生「病いと人-精神医療・福祉の視点から-」と、高齢者総合福祉施設アザレンさなだ総合施設長の宮島渡先生「多機能性からみるデイケア・デイサービスのあり方」にお話をいただきました。

初日の精神科領域のシンポジウムは、「その人らしく暮らす-精神科デイケアができること-」(座長:池淵恵美 帝京大医学部教授)、2日目の高齢者領域のシンポジウムは「通うこと 集うこと-高齢者デイケア・デイサービスのこれから-」(座長:岩尾貢 特別養護老人ホームたきの里施設長)が行われました。

2日目のワークショップは、「地域生活をフルに楽しもう-役に立つSSTの実際-」(前田ケイ ルーテル学院大学名誉教授)と「こころが踊る、身体もはずむ-高齢者のダンスセラピー-」(大沼幸子 東北福祉大学健康科学部准教授)の2つが開かれました。

一般演題は84題の応募をいただきましたので分科会を14用意しました。また、3つのランチョンセミナー(染矢俊幸 新潟大学大学院教授、鳥羽研二 国立長寿医療研究センター病院 病院長、肥田裕久 肥田クリニック院長ほか)も開催しました。

さらに、前日の16日(木)の午後には、会場の近くで、松永宏子 中部学院大学教授による「集団(グループ)の力を活用したデイケア実践」と内出幸美 社会福祉法人典人会理事・総所長による「認知症高齢者の地域生活支援(デ

イサービス)の実際」と題した学会主催の研修会を行い、121名の参加がありました。

大会終了後の19日(日)の午前には、3コースに分かれての施設見学会を実施し、57名の参加がありました。Aコースは、成人を対象とする精神科デイケアで、原クリニックと仙台市精神保健福祉総合センター(はあとぼーと仙台)、Bコースは、児童思春期を対象とする精神科デイケアで、東北福祉大学せんだんホスピタル、Cコースは高齢者の通所リハビリテーションと介護予防教室で介護老人保健施設せんだんの丘およびせんだんの丘プラスを見学していただきました。

仙台大会開催にあたっては、東北福祉大学せんだんホスピタルの職員4名が事務局を担当し、「みやぎ精神科デイケア研究会」(代表:原敬造)と「宮城の認知症ケアを考える会」(代表:浅野弘毅)のメンバーを中心に実行委員会を形成しました。さらに宮城県内の関係諸団体の代表の方々を中心に運営委員会を構成しました。当日までに事務局会議は35回、実行委員会は23回、運営委員会は4回開かれています。

当日は、大勢の地元の関係者の方々の協力を得て、有意義な大会を盛会裏に終えることができました。

仙台大会では、利用者に喜ばれ、利用者の社会参加に役立つことのできるケアとサービスのあり方について、原点に立ち返っての議論が展開されました。

平成23年は名古屋で「デイケアからの飛躍」をメインテーマに年次大会が開催されます。仙台大会における討論が引き継がれ、さらに交流の輪が広がり、本学会がますます発展することを祈念致します。

(東北福祉大学せんだんホスピタル院長)

日本デイケア学会 第16回年次大会名古屋大会のご案内

大会テーマ

「**デイケアからの飛躍** ～それぞれのリカバリーを目指して～」

大会長

福智 寿彦 (医療法人福智会 すずかけクリニック院長)

大会URL

<http://www.jpdc16.com>

会期

平成23年 9月22日(木)～9月24日(土)

学術大会 9月22日(木) 23日(金) / 見学会・研修会 9月24日(土)

プログラム

学術大会

日時：平成23年9月22日(木)・23日(金)

会場：白鳥ホール

参加費：

会 員	事前登録	7,500円
	当日	8,500円
一 般	事前登録	8,500円
	当日	9,500円
当事者・家族・学生		4,000円

1. 特別講演

- I) 「**リカバリー実践から日本へ提言できること(仮)**」
デービット・ピロン (ロサンゼルス郡精神保健局 所長兼CEO)
- II) 「**精神障害リハビリテーションとリカバリー**」
野中 猛 (日本福祉大学社会福祉学部 保健福祉学科教授)

2. 教育講演

- I) 「**認知行動療法の実践**」
石垣 琢磨 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
- II) 「**それぞれの現場からみたデイケアの位置づけ**」
兼本 浩祐 (愛知医科大学精神科学講座教授)

3. シンポジウム

- I) 「**気分障害を対象としたリワークデイケア ～リワークプログラムの実践と効果～**」
五十嵐 良雄 (医療法人社団雄仁会 メディカルケア虎ノ門院長)
舟橋 利彦 (ルーセントJ'sクリニック院長 / 医療法人明心会 仁大病院理事長)
加藤 和子 (さくら・ら心療内科院長 / 医療法人生々堂厚生会 森病院副院長)
大木 洋子 (医療法人社団雄仁会 メディカルケア虎ノ門 / 慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 博士課程)
- II) 「**精神科デイケアのこれから**」
竹中 秀彦 (京ヶ峰岡田病院診療管理局PSW部部长)
- III) 「**高齢者デイケア**」 「**地域の暮らしを支える通所サービスの役割**」
井上 崇 (介護老人保健施設「伸寿苑」施設長代理)
- IV) 当事者シンポジウム「**当事者の想いに耳を傾けよう**」
- V) 家族シンポジウム「**家族の想いに耳を傾けよう**」

4. パネルディスカッション 「日本におけるリカバリーとは」

特別発言 厚生労働省担当課長（交渉中）

パネリスト 浅野 弘毅（東北福祉大学 せんだんホスピタル院長）
兼本 浩祐（愛知医科大学精神科学講座教授）
佐々木 裕光（医療法人恵愛会 福岡病院院長）
澤 温（医療法人北斗会理事長）

司会 窪田 彰（日本デイケア学会理事長 医療法人草思会クボタクリニック院長）
福智 寿彦（医療法人福智会 すずかけクリニック院長）

5. 市民公開講座 「当事者が語るリカバリー」

シンポジスト 広田 和子（精神医療サバイバー）ほか

司会 永田 仁

6. 一般演題

7. ランチョンセミナー

8. 企業展示

9. 懇親会

< 研修会 >

日時：平成23年9月24日（土）

< 施設見学会 >

日時：平成23年9月24日（土） A・B・Cコース … 9：00～12：00

会場：見学会会場現地集合 Dコース … 13：30～15：00

※事前申し込み定員制（先着順 大会ホームページより申し込み）

Aコース：刈谷病院（精神科デイケア）

Bコース：医療法人福智会（精神科デイケア）

Cコース：県立城山病院（精神科デイケア）

Dコース：ルーセントJ'sクリニック

演題募集について

日本デイケア学会第16回年次大会では、デイケアに関する演題を広く募集します。

演題および抄録原稿の締切日は、**平成23年4月30日（土）**までを予定しております。演題を申し込まれる方は、大会ホームページの演題募集をご確認下さい。抄録原稿作成などの詳細についても大会ホームページをご参照下さい。

【募集要項】 募集要項の詳細は大会ホームページ上で公開してまいりますので、ご参照ください。

大会参加事前申し込みについて

大会参加事前登録の締切日は**平成23年6月30日（木）**までを予定しています。

研修会、施設見学会は事前登録者を優先に、定員に達した時点で募集を締め切ります。

デイケア 西から東から、北から南から…

仙台での第15回大会が盛会のうちに終了し、参加者は多くのことを吸収し、現場に戻られ実践の中に活用されていることでしょう。今回、全国から大会に駆けつけた参加者の中から4人の方に、大会参加の感想・感激を伝えていただきました。藤田さんは、鷺田先生の特別講演のテーマである「支えあうということ」に共感され、実践の中で活動を担っている利用者の役割の重要性を再確認されています。矢島さんをご自分の発表に挑戦し、また、迫力ある当事者の報告等に刺激を受け、社会と共に変化するデイケアを肌で感じられたことを伝えてくれました。「集団の力を活用したデイケア実践」の研修会に参加された萬屋さんご自分の実践の中で日頃感じている問題と結びつけて集団の意義を再認識されています。「認知高齢者のデイサービスの実践」の研修会に参加された小野寺さんは、通所者の地域性のある日常生活の営みをプログラムに取り入れた実践に感動された報告をしてくださいました。それぞれ会場に向いたからこそ感じる熱気に刺激を受け、さわやかな気持ちで現場に戻られていることが伝わってきます。年一回の大会に参加することで、マンネリ化しやすいデイケア活動に自分たちの実践を見直し、試行錯誤してきたことの思いをぶつけたり、自慢の思いを抱いたりできるのではないのでしょうか。(広報委員会一同)

「集団の力を活用した デイケア実践」の研修会に 参加して

萬谷 暁子

クリニック併設のデイケアに勤務して3年になりますが、集団の中での支援の難しさに日々悩んでいる中で研修会に参加させていただきました。

グループワークの定義・目的・機能について松永先生の経験を含めたお話で大変聞きやすく、参考になりました。グループワークは目的によって様々なモデルがあり、実践する際には、個々のニーズや関心を尊重することが大切であり、時には意図的な関与や制限が必要なことや、葛藤解決がグループを成長させることがわかりました。そして、グループワークの展開過程で生じる力動を活用することで個人の変化、成長、認知の修正、生活技能の獲得などを行うことができることが理解できました。

看護師という職種の習性なのか、私はつい転ばぬ先の杖をしてしまいがちなのですが、メンバーが本来持っている力を信じ、目は離さずに手を離していく関わりを実践していくことが大切だと振り返ることができました。デイケアでは、メンバーの特性を理解し、グループの場での安心・安全の保障、本人の主体性を重視しながらプログラムを検討し、メンバー各々が自分の意見や行動に自信が持てるように支援していくことが大切だということを知りました。

デイケアスタッフとして、メンバー個々が、その人らしい生き方の模索ができるように寄り添っていくことが、メンバー自身が仲間意識を育み、地域で生きる力をつけるための支援につながると認識できました。

また、スタッフ間での相互点検を怠らず、支援の視点がぶれないように努めたいと思います。日々の関わりを通してメンバー・スタッフ共に成長していけるデイケアになることを目標に取り組んでいきたいと思っています。

(野々市こころのクリニック デイケアオリーブ)

役割について

藤田 裕太郎

私は、今回のデイケア学会は当院の医師から勧められて参加した。私自身デイケアの分野に関わることは1年目であり、また、当院の精神科デイケアも開設してから約半年と日が浅い状況で、全国大会という響きに対するコンプレックスも抱いていた。

そんな状態であったが、私をもっとも印象に残っている演題は大阪大学学長の鷺田清一氏による特別講演である。「支えあうということ」と題された講演の中で、「役割」がキーワードとして数多く登場しており、医療・福祉の現場においては、利用者が専門職にケアをしてもらう状況が多く見受けられるが、逆に専門職が利用者になにかをしてもらう状況も大切である、と解説して下さいました。

当院のデイケアメンバーの中には、習字が得意なAさん、農業に詳しいBさんがいらっやあって、それぞれ講師役を

務めるプログラムを担当している。メンバー間で教え合う関係を作るようにすることで、本人が持っている知識や技術に自信が持てるように、また、教える側には相手にわかりやすく教える工夫が求められるので、相手のことを知ろうという気持ちが働くことを私は期待している。

園芸プログラムの中では、Bさんがスタッフを含めた参加者に工程を教えてもらい、私自身もこの秋に、初めて草刈機を使う体験をした。私は慣れない機械に悪戦苦闘している所、Bさんは私にたくさんアドバイスしていたのに、すいすいと草刈りを終わらせてしまった。私は、Bさんが作業後に「次回も任せてください」と自信ありげに話していた表情が印象に残っている。

今回のデイケア学会では、人見知りの私でも初対面の方にもたくさんお話を伺うことができ、多くの学びを得ることができた。これに満足せず、日々の実践を通して学び続ける姿勢を忘れないようにしたい。また、ワインバーと体験談の執筆という貴重な機会を頂いたことを松永先生はじめ、編集委員の方にはこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

(JA 秋田厚生連 北秋田市民病院)

私のデイケア学会記

矢島奈津子 (作業療法士)

9月に開催されたデイケア学会に参加してきましたので、その時のことをお伝えします。今回の学会は私にとって、発表という挑戦の場でした。内容の検討から9月まで、長々とプレッシャーを感じながら学ぶ日々でした。

初日、真っ先に牛タンを堪能した後、迷いつつ到着したホテルは、至るところに彫刻が飾られ、豪華絢爛な装飾で私たちを出迎えてくれました。

学会は流れを感じる場でもありました。研修会の講義や演題発表を聞きながら、「うちのデイケアはどうなんだろう?」と常に自分たちのことを考えていました。私たちのデイケアでは、統合失調症の方に対する援助を丁寧に行っています。しかし、早期発見・早期治療を目指す中で、診断名はつかなくても不安定さを抱えた子が、デイケアに来ることが増えています。発表にも、発達障害圏の子どもたちが加わることによるデイケアの変化、プログラムについて述べたものがあ

りました。当事者の方の発表は新鮮で迫力がありましたし、数々の実践や研究報告、薬剤についての発表も参考になりました。会場に出向き、発表者の熱気を直接受けることで、社会と共に変わるデイケアの流れを肌で感じられました。

発表前日の夜はずんだ餅を食べても気はそぞろでした。しかし発表は会場の皆さんの温かさに支えられ無事に終えられました。何よりも、発表に至るまで必死になって準備することが総まとめとなり、小さな自信となりました。

学会は出会いの場でもありました。人見知りの私にはレセプションは気が重い場所でもありますが、そこでのご縁でこのような感想を書く機会をいただけました。全国各地で活躍される皆さんと、出会いがつながって縁になることが嬉しく心強く思います。

学会を終え松島で食べた牡蠣は、これまでで一番美味しい牡蠣でした。学会の興奮と共に仙台が大好きになりました。支えてくれた職員とデイケア利用者の皆さんに感謝し、この体験を生かしていきたいです。

(医療法人篠崎医院豊科診療所)

デイケア学会の研修感想

小野寺敦志

研修当日は、うす曇のどんよりとした天候であった。研修の参加者は総勢 20 名弱とこじんまりした人数であったが、質疑応答や、描画といった個人ワークを含めた演習を取り入れた研修内容には、ちょうど良い人数であったのではないかと感じた。また、講師の内出先生は、坂本冬美のお姉さんかと感じさせる雰囲気、「歌が飛び出すのではないか」と想像してしまうもの柔らかな口調が、なごやかな研修を醸し出していたのかしれない。

研修のキーワードは「家政学」であった。家政学というどうしても小中学校時代の「家庭科」を連想してしまい、戸惑いを感じた。しかし、デイサービスの中でその家政学の視点を取り入れた具体例を提示されながら説明を受けていくと、なるほどと感心させられた。高齢者デイサービスのプログラム、特に多人数になるとどうしても、全体で参加できて、その回ごとに完結するものが主になってしまいがちである。内出先生のところが小規模デイサービスということ

もあろうが、1 回ごとに完結する点のサービスではなく、1 年 365 日の生活を踏まえたプログラムを組むことで、連続性のある線のサービスにしている。

たとえば、地域性を取り入れて、冬には干し柿を作るとする。柿の皮をむいて串に刺しの軒下に吊るせるようにする。そして、デイサービスにくるたびに、軒下を見て出来具合を確認する。出来たときにはどういう食べ方をしようと相談する。食べられるころあいには実際に、いろいろと料理をし

たりして食してみる。そのようなかつて高齢者の方々が自宅でも行っていた日常の営みをデイサービスのプログラムの中に取り入れ、日常の延長としてのサービスを展開する。

その土台に「家政学」という日常を科学する学問があるというのだ。このように、理論と実践を踏まえた講話は、目からうろこの内容であり、実りある研修であった。

(国際医療福祉大学大学院)

日本デイケア学会 委員会活動報告

組織委員会の活動報告

組織委員長 古屋 龍太

前号のニュースで触れた通り、今年度は「評議員選挙細則」の改正に取り組んで来ました。先の第 15 回年次大会（仙台）で承認された改正細則の要点は以下の通りです。①推薦・立候補期間を設け、仮候補者を募った上で受諾意思確認を行い、評議員候補者を公示する。②候補者公示・投票締切は改選年度内に行い、選挙時期を繰り下げる。③選挙資格については、前年度までの会費を納入済みの会員と定める。④候補者数が、当該選挙区の評議員定数を超えない時には、無投票当選とする。⑤不正行為をした会員は選挙権・被選挙権を失う。⑥細則に定めのない事項については、選挙管理委員会が決定できる、等です。このニュースが皆さんのお手元に届く頃には、在京の会員を中心に選挙管理委員会が発足しているはずです。評議員選挙に奮って立候補・推薦を頂くなど、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

編集委員会の活動報告

編集委員長 浅野 弘毅

学会機関誌「デイケア実践研究」は年 2 回刊行されています。今年度は 14 巻 1 号がすでに発刊済みで、現在 2 号の編集が進んでいます。1 号は、第 14 回年次大会（沖縄）の報告を特集しました。くわえて「新旧理事長に聞く」と題する座談会を行い、柏木昭前理事長と窪田彰現理事長に、学会設立から今日までを回顧していただき、学会の未来についても展望していただきました。2 号では「精神科デイケアと他機関連携」と「小規模多機能型サービス活動の現状と課題」の 2 本の特集が予定されています。編集委員会では会員各位の積極的な論文投稿をお待ちしております。

研修委員会の活動報告

研修委員長 栗原 毅

第 15 回仙台大会の 2 日目に研修委員会を開催しました。今回は、東京地区での研修会と、次年度の名古屋大会に合わせて行う研修会について検討しました。

東京地区では、昨年 5 月に田中哲先生を講師にお迎えして、「デイケアにおける発達障害者支援」というテーマで研修会を行いました。大変充実した内容でしたが、「発達障害」の理解について多くの時間を取ったため、デイケアにおける具体的な支援については十分話し合えませんでした。そこで、今年 5 月に再度田中先生を講師にお願いし、発達障害者支援に焦点をあてた研修会を企画する事にしました。

また、今年度同様、次年度の名古屋大会に合わせて、高齢者のデイケア分野と精神科デイケアの分野で各々研修会を企画する事にしました。まだ検討中ですが、精神科デイケア分野では、参加者同士の意見交換に多くの時間を取るワークショップ形式の研修会を検討しています。

以上、大会時の研修委員会及びその後の検討状況をご報告します。

調査研究委員会の活動報告

調査研究委員長 佐々木 裕光

9 月の第 15 回年次大会（仙台）の時に調査研究委員会を開催し、「デイケアの実態に関する調査」を行うことが決定しました。昨今、医療をはじめ、自立支援法及び介護保険法によるさまざまな福祉サービス、社会資源が混在しております。そのような中で、医療であるデイケアとその他の施設の設置及び利用状況を併せて調査し、今後のデイケアのあり方についても検討する資料となればと考えております。

なおこの調査には、日本精神神経科診療所協会に所属の診療所にも精神障害者の施設利用の実態調査を行う準備中です。会員の皆さまのご協力のほど、よろしくお願い致します。

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 下記入会申込書にご記入の上、FAX か郵送で下記事務局までお送りください。
2. 入会金および年会費
 正会員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円
 団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円（登録者名の変更は適宜可能）
 （3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください）
 振込先：郵便振替 名称：日本デイケア学会 口座番号：00170-8-167337
3. 資格（会則の一部を引用します）
 正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。
 団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。
4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F (有)エム・シー・ミュージズ内
 日本デイケア学会事務局
 TEL&FAX：03-3813-6368
 E-mail：info@daycare.gr.jp URL：http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線（ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。） -----

入会申込書

申込日 平成 年 月 日

(正会員用)

氏名		性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
職種		所属先名称 (勤務先)						
所属先所在地	〒			電話番号	()			

(団体会員用)

団体名		代表者						
所在地	〒							
種別		TEL	()			FAX	()	

デイケア従事者(計 名) ※デイケア従事者より会員登録となります。

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ
氏名	フリガナ	氏名	フリガナ